

平成 29 年度

行政視察報告

11 月 7 日(火)～9 日(木)

大草博輝

7 日(火) 大分県竹田市「竹田市式湯治の取り組みについて」

大分県竹田市は、平成 17 年 4 月 1 日、1 市 3 町(竹田市、荻町、久住町、直入町)の合併により発足。人口は、22,342 人(平成 27 年)、高齢化率 44.8%。総面積は 477.67km、約 7 割が山林。1 日に数万トンの湧出量の地域です。

竹田市式湯治の取り組みは、首藤勝次市長の「農村回帰宣言都市」「世界に通じる個性的な温泉地の形成」を目指す、基礎自治体の自立を図る重要な施策です。

「農村回帰宣言都市」は、少子、高齢化、過疎化対策として作家の招へいや工房また城下町の再生を図っています。また「世界に通じる個性的な温泉地の形成」は、炭酸泉をキーワードにドイツのバート・クロツィンゲン市と姉妹都市を結び、予防医療や観光振興を推進しています。

平成 23 年度からは、日本で初めての独自施策として「温泉療養保健制度」湯治による予防医療と健康づくりを始めています。具体的には、宿泊 3 泊以上又は立寄り入浴施設利用者に対し 3 種類の保健給付を行い、高血圧、糖尿病の治療者への医療費の抑制につなげています。

また、温泉療養保健制度を生かしくアハウスやソフト事業としてインストラクターの養成、西洋型温泉療養地としての観光振興、日本名湯百選地(仙北市、豊富町)との連携を図っています。

8 日(水) 福岡県久留米市 「久留米まち旅博覧会事業について」

久留米市は、平成 17 年 1 市 4 町が合併し、人口 306,211 人(平成 29 年)、面積 229.96km です。

久留米まち旅博覧会事業は、交流人口の拡大による地域活性化、地域イメージの向上・ブランド化を図るため、久留米市全体の地域資源の発掘し、着地型体験旅行を推進するために「久留米まち旅博覧会」の実施したものです。

久留米まち旅は、平成 18 年度久留米市商品化戦略プランを JTB 九州に業務委託し、平成 19 年度久留米市商品化戦略プランワーキングチーム 10 名、市民 22 名によりプログラムを検討し、平成 20 年度久留米まち旅博覧会として開催しています。平成 24 年度からは「NPO 法人久留米ブランド研究会」がまち旅を運営しています。

まち旅の実施者は、農家、酒蔵、工場(ブリヂストンなど)、公共施設(自衛隊など)、名所旧跡、ホテル、交通機関、病院、カフェ、工芸家、市民団体など 650 団体が参加しています。平成 20 年度から平成 28 年度までの参加者人数は 17,000 人(市内 59%, 市外 41%)、平成 24 年度から年間を通して体験できるよう「いつでもまち旅」を実施。平成 27 年度から「ふるさと旅行券」の商品化をしています。

まち旅の成果としては、1. 交流人口の拡大 2. 久留米のイメージアップ、認知度アップ 3. 市民自身による地域の再発見 4. 人材育成とネットワーク化 5. 定住促進が行われています。

9 日(木) 福岡県古賀市 「全小・中学校での 2 学期制実施について」

福岡県古賀市は、平成 9 年 10 月 1 日に市制施行し、人口 58,333 人、面積 42.07km です。

古賀市は、「日本一通いたい通わせたい学校」~確かな学力と豊かな人間性を育む学校教育の充実~の取り組みとして、小中学校二学期制を導入しています。

二学期制へのプロセスは、平成 14 年度に二学期制の調査研究をし、翌 15 年度に研究協力校で実践、平成 16, 17 年度に全小中学校で二学期制を試行し、平成 18 年度から本格的に実施しています。二学期制は、前期を 4 月~10 月(10 月上旬)、後期 10 月(中旬)~3 月。夏休みは 7 月 21 日~8 月 29 日。秋休みは 10 月 11 日~15 日(5 日間)☆年により変わる。冬休みは 12 月 25 日~1 月 7 日(14 日間)。春休みは 3 月 25 日~4 月 7 日。

二学期制の成果としては、1. 学習指導・進路指導等の充実 2. 児童・生徒との関係の充実 3. 行事の削減・創造 4. 評価の充実 5. 部活動の充実等です。一方課題としては、二学期制での学校改革の実際を教務主任者間で研究することが必要です。